



四日市福祉会の「地域における公益的な取組」の一例。

- 1 2 「四日市徹夜おどりの祭典“よんてつ”」や地域の餅つき大会などに運営ボランティアスタッフとして参加
- 3 地域住民の健康増進のためにリハビリテーション室を使って「運動教室」を開催
- 4 阿倉川駅の近くにガソリンスタンドをオープン。利用者の方がスタッフとして働いています

CASE 2

社会福祉法人 四日市福祉会

地区イベントの運営スタッフや店舗運営を通じて、地域の一員として認められる存在に

ベーカリーショップやガソリンスタンドの運営などを通じて、知的障害を持つ利用者さんが積極的に地域の人々と関わる機会を提供している四日市福祉会。四日市市羽津地区の餅つきイベントや「四日市徹夜踊りの祭典“よんてつ”」などの行事にも、お客さまではなく“運営スタッフ”の立場で参加し、地域の一員として交流を深めながら地域貢献活動に力を注いでいます。

法人の想い

原点は障がい者の就労支援。 その先に地域貢献の可能性が広がる

知 的障がい者の方の入所施設や地域生活援助、通所施設、就労支援などを展開している四日市福祉会。そのルーツは、モーター製造メーカー「株式会社オークテック（旧社名・柏木電業）」での障がい者雇用にあります。

「戦前から高齢者、障がい者といった就業弱者の方の雇用に取り組んでいて、平成に入った頃でも障害者雇用率は20%以上を超える会社でした」と、柏木理事長は振り返ります。

とはいえ、地域の製造業の会社が雇用によって支援できる人数には限りがあることも感じていました。そこで、平成6年、社会福祉法人四日市福祉会を設立。知的障がい者の方への生活の場の提供と就労支援に本格的に取り組み始めました。

四日市福祉会の法人理念には「自立を支える」という一文が掲げられています。

「経済的な自立だけでなく、一人ひとりの方が自分なりに生きていけるように“自立”を支えたいという想いがあります」



「Bakery Shop Blooming」

自立を支えるための取組の一環として、施設開設当初から手がけてきたのがパンの製造販売。製造工程だけでなく、袋詰め、レジ作業などさまざまな現場で障が



社会福祉法人
四日市福祉会の
柏木三穂理事長

い者の方が自らの得意分野を活かして作業にあたっています。

平成20年にリニューアルオープンした「Bakery Shop Blooming」は羽津地区の人気パン店として地域に根づいた存在に。

「障がい者施設を作る際にも、“戦前からこの地で事業を行っている柏木電業さんだから”ということで、地域の皆さんからご理解をいただきました」

ベーカリーショップには近隣の住民の方も勤めに来ており、地域の雇用創出の場にもなっているといいます。

5年前からは羽津地区のまちづくり推進協議会との繋がりを深めるようになり、地域の餅つき大会に利用者が参加。会場設営にも関わるなど、運営スタッフの一員を担っています。

「役割を持って参加することで、利用者さんが自分の力を発揮できる機会を得られています」

地域の人たちからも地域の一員と認められ、さまざまなイベントに声がかかるように。四日市ドームで開催される“よんてつ”にもボランティアスタッフとして参加。終了後の打ち上げにも誘われるなど交流を深め、今では利用者の方が参加するのが当たり前のこととして受け入れられるようになっています。

通所施設(知的障害) ブランチ スプリング
四日市市別名3丁目2-12 TEL 059-336-5022 【施設長】渡邊 淳
【開設】平成21年10月 【施設概要】就労継続支援(B型) / 生活介護

通所施設(知的障害) ラポール スプリング
四日市市別名3丁目3-10 TEL 059-329-7531 【施設長】後藤聖英
【開設】平成24年6月 【施設概要】生活介護 / 放課後等デイサービス【就学児対象】

通所施設(知的障害) ブランチ スプリング ブルーミング阿倉川SS
四日市市阿倉川町8-7 TEL 059-332-1145
【開設】平成28年11月 【施設概要】就労継続支援(B型) / 生活介護

Bakery Shop Blooming
四日市市別名3丁目3-10 TEL 059-333-7379 【オープン】平成7年7月
出光ガソリンスタンド ブルーミング阿倉川SS・ぱんカフェ Blooming阿倉川店
四日市市阿倉川町8-7 TEL 059-332-1145 【オープン】平成28年11月



●法人基本情報

社会福祉法人
四日市福祉会

四日市市別名3丁目3-10
TEL 059-331-8660
理事長 柏木三穂
設立 平成6年7月27日

【事業内容】障害者支援施設(知的障害)・就労支援・ベーカリーショップ・ガソリンスタンド

主な事業所

障害者支援施設(知的障害) 垂坂山ブルーミングハウス
四日市市別名3丁目3-10 TEL 059-331-8660 【施設長】畠山伸也
【開設】平成7年7月 【施設概要】生活介護 / 施設入所支援 / 短期入所

通所施設(知的障害) かすみヶ浦ブルーミングハウス
四日市市富士町8-5 TEL 059-330-0327 【施設長】渡邊 淳
【開設】平成11年4月 【施設概要】就労継続支援(B型) / 生活介護

共同生活援助(知的障害) G&Cホームブルーミング・G&Cホームつうきん
四日市市別名3丁目3-10 TEL 059-331-8660 【施設長】金原真由美
【開設】平成11年10月 【施設概要】共同生活援助 / 短期入所

相談支援事業所 ブルーム
四日市市別名3丁目2-12 TEL 059-329-5657 【施設長】柏木三穂
【開設】平成20年10月 【施設概要】障害者相談支援事業、指定特定相談支援(計画)、障害児相談支援(計画)、指定一般相談支援事業(地域相談支援)

取組 1 “よんてつ”や餅つき大会など地域行事に**運営スタッフ**として参加。地域にとって欠かせない存在に



夜を徹して盛り上がる年に一度の盛大なイベント“よんてつ”。打ち上げには利用者の方も招かれて参加しています。

5年前、羽津地区まちづくり推進協議会が施設見学に訪れたことがきっかけで、協議会との繋がりが生まれ、現在、グループホーム管理者の金原真由美さんは障害者福祉部会の会長を務めています。地区の餅つき大会には毎年10名以上の利用者が参加。会場設営などの運営にも関わっています。「“次回も来てくれるよな”っ



金原真由美さん

て、地域の人たちから認められる存在になっているのは嬉しいですね」と金原さん。
四日市ドームで開催される「四日市徹夜踊りの祭典“よんてつ”」にもボランティアスタッフとして、職員と利用者20名で参加。飲食スペースの会場管理を主に担っています。「打ち上げに誘われるのを楽しみにしています。地域の方とLINE交換して交流を深めている利用者さんもみえますよ」

取組 2 廃業した地域の**ガソリンスタンド**を自ら運営。“**親切なガソリンスタンド**”として地域のドライバーに貢献



ガソリンスタンドには6名の利用者が勤務。ばんカフェも併設しています。

社会福祉法人が運営するガソリンスタンドとして注目の「ブルーミング阿倉川SS」。平成28年、近鉄阿倉川駅近くにオープンしました。元々は利用していたガソリンスタンドが廃業することになり、自ら運営を手がけることを決断したのがきっかけ。障がい者雇用によるガソリンスタンドの運営というプランはなかなか理解が得られず、実現までの道のりは難航しましたが、出光興産の協力を経て3年がかりで実現。

し、地域の人々が集う場所にもなっています。「当初は“障がい者の人がガソリンスタンドで働いて大丈夫？”といった声も聞かれましたが、訓練を受けた利用者さんが生き生きと働いている姿に、周囲の理解も深まってきました」と柏木理事長。高齢ドライバーでセルフ給油に不慣れな方にはスタッフが積極的に手を差し伸べるなど、“親切なガソリンスタンド”として存在価値を高めています。

取組 3 充実した設備のリハビリテーション室を活用して地域の方に理学療法士が指導する**「運動教室」**を開催



理学療法士によるきめ細かな指導が受けられ、地域の参加者の皆さんから好評だったといいます。

垂坂山ブルーミングハウスにはさまざまなトレーニング器具を備えたリハビリテーション室が設置され、利用者のリハビリに力を入れてきました。平成27年4月には理学療法士を正規職員に迎え、態勢を充実。年に一度のイベント「ブルフェスタ」では健康サポートコーナーを設けて、体組成計体験や骨密度測定などを実施。地域の人たちの健康への意識づけもはかってきました。その発展形として、“もっと実践的な働き



理学療法士の伊藤 賢さん。

かけ”ができないかという思いから、平成31年、新たに「いきいき健康サポート 運動教室」をスタート。地域から6名の参加者を募り、測定結果に応じた運動方法の指導にあたっています。去年は1月～3月に計6回実施。参加者の皆さんは理学療法士の指導のもと、マシントレーニングのプログラムに取り組んだり、ホームエクササイズ指導を受けてもらいました。運動教室の中では、参加している地域の方と入所利用者の方が自然とふれあいを持つ場面も。初めて施設の中を訪れた地域の方が障がいの方が安心して活動している姿に接し、施設への理解を深めてもらう効果も得られたといいます。

取組 4 民生委員を通じて生活困窮者の方へ**「Bakery Shop Blooming」の冷凍パン**を配布

運営しているベーカリーショップで冷凍保存しているパンの有効な使いみちを検討している中で、生活困窮者支援に役立てられないかという案が浮上。羽津地区の民生委員に相談したところ、冷凍パンを持っていくことで訪問のきっかけを作ることできるという意見が得られ、平成30年から冷凍パ



冷凍パンを常に準備しています。

ンの配布事業「パンdeサークル」をスタートしています。一世帯用に500円～700円分のパンを用意。民生委員が年に一、二度、袋に詰められた冷凍パンを携えて各世帯を訪問しています。民生委員の方からは、手土産があると喜んでもらえて、訪問しやすいという声が寄せられているといいます。